

## 指導者（保護者）として大切にしたいこと（その37）

### ～「基本の大切さ」～

2022年5月吉日  
U12部会広島地区  
SV 大庭 浩資

広島県バスケットボール協会U12部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

新年度が始まり1か月が経ちましたが、各チームにおかれましては、新しい部員での活動もそろそろ軌道に乗りかけ、選手の皆さんも、これから始まる練習試合や前期リーグ戦を楽しみにしていることと思います。

ただ、新型コロナウイルスについては、どこでもだれでも感染しうる状況が今だに続いています。拡大防止のため、またこの先、いろいろな大会が無事開催されるためにも、今後も「新しい生活様式」（マスクの着用、咳エチケットや手洗い、3密を避けるなどの対策）をより一層徹底しなければなりません。

まず最初の話ですが、女子Wリーグで2連覇を達成し、自らは大会MVPに選ばれたトヨタ自動車の山本麻衣選手が、先日、4年生まで在籍した広島市のチームに凱旋し、ミニサイン会やトーム会でチームのみんなと交流しました。

※ 山本選手については、コラム32号（昨年10月に掲載）に詳しく書いてあるので、ぜひご覧ください。

トーク会では、ミニバスケットボール時代にバスケットの楽しさ、基本の大切さ、仲間を大事にする大切さをコーチから教えてもらったことを話し、さらに「好きなことに熱中すること」「今、やっていること（勉強もバスケットも）が必ず将来につながる」ことなども小学生に伝えていました。

また小学生からの技術的な質問にも身振り手振りで丁寧に答えていました。

私個人として、一番印象に残ったのは、「バスケットボールの練習のやりすぎはダメ」という言葉です。これまで苦しい練習を続ける中で、山本選手は、多くの仲間がドロップアウトしてきたのを見てきたそうです。

練習は時には楽しく、時には苦しいものです。

しかしその苦しみが「バスケは嫌い」「もうバスケはやめる」になっては何の意味もありません。

このような話はとても大切で、ミニバスケットボールの指導者として、しっかり頭に入れておかなければならないことだと思いました。

さてトーク会の最後に、山本選手は更なる夢として、次のオリンピックに出場すること、また外国のリーグでプレイすることを挙げていました。

山本選手のこれから益々の活躍に期待したいと思います。



サインの下側にある「Rimu」は山本選手のコートネームで「ドリーム（夢）」からきていて、「麻衣のプレイは夢を与えてくれる」と同僚のステファニーがつけたそうです。

さて今回のテーマは、山本選手も述べている「基本の大切さ」としました。

私は小学校の教師をしています、学校でよく見かける面白い事象をもとに、「基本の大切さ」についての私見を述べたいと思います。

以下の内容はある教育誌に載っていたものですが、私も同じようなことを常々感じています。

その内容とは・・・

低学年の児童の中に、ひらがなの字がとても丁寧に形よく書くことができるのに、自分の名前になると形が崩れる児童をよく目にします。自分の名前は小学校に入学以来、たびたび書いてきています。テスト、プリント、作品、作文などに毎日のように書いているのです。それなのになぜでしょうか。

その理由の一つに、「自己流のクセが身に付いている」ことが挙げられます。

子どもの中には、入学する以前にすでに五十音の読み書きができる子どもたくさんいます。家の人に教えられたわけではなく、絵本などで自然に読み書きできるようになった子ども多いです。

そして、字を書く際、まずは身近なもの、そして「自分の名前」を書くことが多いのではないのでしょうか。保護者も我が子が自分の名前を書けるようになったことで大きな成長を感じるでしょう。

しかしその時、正しい鉛筆の持ち方や筆順、とめ、はらい、力の入れ方などを教えられないまま、何度も何度も「自分の名前」を書くことで、自己流のクセのままの書き方になじんでしまうのです。

1年生になってから、学校では鉛筆の持ち方とともに、筆順、とめ、はらい、力の入れ方などの指導も一字ずつ行われます。しかし、その子がすでに身に付けている書き方のクセを直すのは、とても難しいです。個別指導の時間も十分に取れないし、限られた時間で次々と先に進まねばならないのです。

家で文字を書くことに興味を持つようになったら、親はせめて、子どもの鉛筆の持ち方には気を付けてほしいと思います。

もちろん、学年が上がるにつれて、そのクセもだんだんと解消されてはいきますが。

この話をバスケットボールに当てはめてみましょう。

低学年のころ、ボールにしっかり触れさせる、ボールと仲良くなることなどを目的に、自由にボール遊びをさせることはとても良いことだと思います。

しかし、ドリブルやシュートに興味を持ち始めた時には、やはり「基本となるボールのつき方」「基本となるシュートフォーム」をある程度伝えることが大切ではないのでしょうか。

つまり「自己流の悪いクセ」が身に付く前に「基本となる正しい知識・技能」を伝えることが必要でしょう。

もちろん、学年が上がるにつれて、その「クセ」も徐々には解消されていきますが、なるべく早いうちから「基本となる知識・技能」を身に付けておけば、技能が上達する速さも格段に違ってくると思います。

それぞれのスポーツを極めた人が、自分が不調に陥った際、よく口にされるのが「基本に返る」「原点に戻る」という言葉です。

それだけ「基本」は大切なのだと改めて感じます。

我々指導者も指導の基本に返り、より適切な指導に心がけたいものです。